



みらいっうしん

3月号

2025年3月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



子どもの成長を見守って

温かい日差しを浴びて、園庭の梅の花も赤く色づきました。「春だよ！」と春の訪れを教えてください。いよいよ園生活は年度の締めくくりの時期を迎えました。

令和6年度も、あと1か月余りとなりました。子ども達の会話の中ではもうすぐ就学や進級することを意識しているのか、嬉しそうに「〇〇小学校に行くんだよ！」「〇〇組になるんだよ！」と教えてください。それぞれが就学、進級と期待に胸を膨らませて、園生活を楽しんでいます。いろいろな体験をしてきた中で出来ることも多くなったことが、喜びや自信につながり、どの子ども大きく成長した姿は、入園当初の頃がとて懐かしくさえ感じます。特ににじ組さんは、園を巣立っていきますので、感無量の気持ちで胸が熱くなります。

先日、にじ組さんと新城小学校の小学5年生との5・5交流の最終活動が行われ、感謝の気持ちを込めて、手作りのみらいちゃんバッチをプレゼントして、校庭と教室に分かれて、「だるまさんが転んだ」「手つなぎ鬼ごっこ,」「爆弾ゲーム,」「じゃんけん列車」などのゲームを楽しみました。毎回同じペアということもあって、お互いのコミュニケーションは良好で、時には、小学生に甘える姿も見られました。全員が新城小学校へは進学するわけではありませんが、この1年間の交流は、きっと子ども達にとって、小学校へのあこがれと安心に繋がったことと思います。最後に、小学生からメッセージカードもいただき、思い出に残る一日になりました。

2月最終日には、にじ組さんとそら組さんとのお別れ遠足がありました。今回は、そら組さんにとっては、すこし距離がある橋公園でしたので、歩けるかなと心配していましたが、にじ組さんが一緒でしたので、なんのその、最後まで頑張って歩くことができました。

このように、子ども達同士が対話を楽しみながら、笑ったり試行錯誤したりした活動や異年齢の友達と関わることは、思いやりの気持ちも芽生え、人との関わり大切さもたくさん学ぶことが出来ます。机に向かって学ぶことも知識は得られますが、もっと大切な心の学びや次への成長は、人との関わりの中で得られるものだと子どもの姿から感じます。みらいこども園は、日頃から人との関わりをとて大切にしていますが、どういう出会いをするかによって、将来の目標や目的が見つかっていくと思います。これからも友達との絆が深まり、普段の遊びがより一層広がり、子ども達の成長に繋がって欲しいと願っています。

にじ組さんと過ごす日々は本当に、残り少なくなりました。子ども達とお別れするのは寂しいですが、みらいこども園での思い出を大切に、胸を張って小学校へ入学してほしいと職員一同心から願っています。また、進級を迎える子ども達についても、自信を持って次へのステップに進めるよう、職員全員が、気を引き締めて教育・保育に臨みたいと思います。

保護者の皆様、ご理解とご協力、本当にありがとうございました。



インストラクターによる
カプラのワークショップ



お別れ遠足